

新しいスタートに際して

4月1日午後、合同入社式なるものを初めて開催しました。ここ小田原、箱根で職業人として新しいスタートを切る若者を地域を挙げて歓迎し激励したい。地域で同期の仲間を作って欲しい。そんな思いで企画しました。加藤市長、山口町長も駆けつけてくださいました。式典、体験型のセミナー、交流会という流れに沿って、徐々に最初の厳粛な空気がほぐれ、最後には和やかな雰囲気の中で、お互いの連絡先を交換し、一本閉めで終わりました。参加してくれた若者のキラキラした表情を見ながら、かれらはそれぞれの企業にとっても、この地域にとっても大切な宝ものだ!と強く感じた次第です。

さて、今年度の事業計画ができました。(HPにアップしてありますのでご覧ください。) 設立70周年目にあたる今年の重点施策のひとつは観光です。東京オリンピック・パラリンピックが近づく中、箱根・大涌谷の教訓に学び、地方創生の政策を活用し、地域でお金を廻すための重要な要素でもある観光にスポットを当てていきます。具体的には、この地域の観光の問題点と課題を示す「(仮称)小田原箱根観光ビジョン」を提言し、その実現を目指します。現在、5月に発表すべく「箱根活性化会議」での議論が佳境に入っています。広く会員の皆さんからのご意見を頂戴したいので、今月末から5月初めにかけて意見を募集します。お声をお寄せください。

地方創生のかげ声とも政府からは積極的な財政出動があり、交付金や補助金がドンドン出てきます。元々それらの原資は税金、借金であります。変なところで使われてはいけませんので、積極的に使っていこうと思います。が、しかし、それらはあくまでカンフル剤だと認識することが重要だと思うのです。そのカンフル剤が効いている間に弱った体力を回復させ、自己の免疫力を上げるという体質改善が必要です。それは自社の経営にも、この地域経済についても言えることだと思うのです。

追申:5/17 会員大会にぜひお越しください。事業計画と併せ、上記の観光ビジョンを発表します。

併せ、アレックス・カー氏の講演もあります。

ご当地の観光についてビジュアルな提言を聴かせてくれるはずです。

会頭 鈴木悌介